

## 第32期営業のご報告

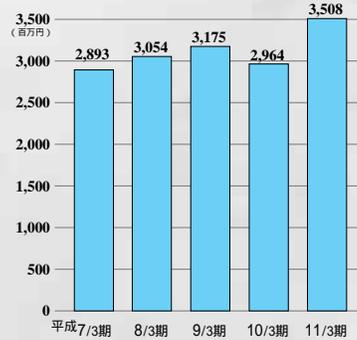
(平成10年4月1日～平成11年3月31日)



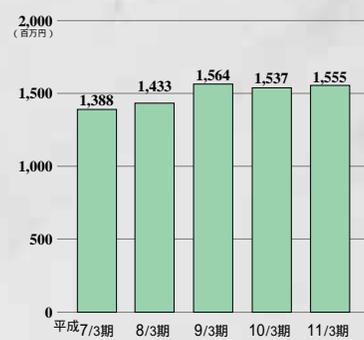
売上高



経常利益



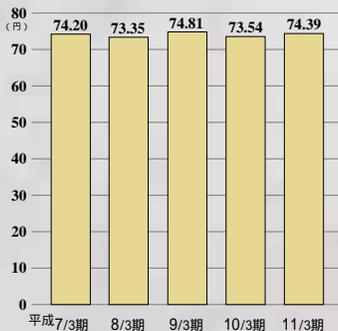
当期純利益



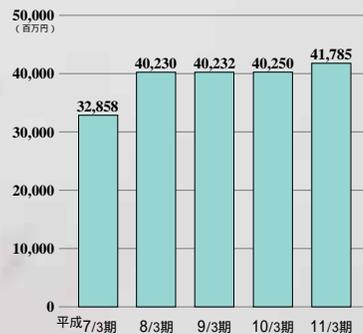
(注)平成11年3月期における事業税の取扱いは、改正後の財務諸表等規則に基づいております。

# Systemex

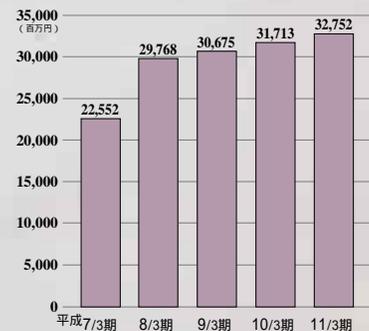
1株当たり当期純利益 [ EPS ]



総資産



株主資本



## 独自の強みを活かし、世界のトップ企業と積極的に提携。 2001年、業界“世界トップ10”を目指す。

当社は、創立30周年の記念すべき一年を無事終えることができました。ここに株主の皆さま方に当期の業績をご報告するとともに、現在、私たちを取り巻く医療環境と、来るべき2001年に業界“世界トップ10”を目指すための事業戦略について、お話しさせていただきます。



取締役社長 家次 恒

### 第32期業績のご報告

まず、創立30周年という節目の期を終えられて、その業績のご報告からお願いします。

30周年ということもあって、売上高300億円、経常利益30億円を目標に掲げ当期に臨みました。長引く不況、医療費の抑制など、取り巻く環境は必ずしもよくなかったのですが、売上高30,194百万円、経常利益3,508百万円と目標を達成し、増収増益となりました。

逆風とも言える環境の中で、目標を達成できた要因はどこにあったのでしょうか。

国内での売上は、前年比約2%増でした。海外では、特にヨーロッパ全域が好調。アメリカは前年並み、アジアはアセアン諸国の通貨危機などもありましたが、若干伸びました。世界的な視点で見ると、

全ての地域が好調というわけには、なかなかいきません。当社が力を入れてきたグローバルな展開がリスクの分散につながり、その結果目標が達成できたと考えています。

世界各国それぞれの医療環境を見据えた、積極的な拠点づくりを展開。

今後、日米欧などにおいてどのような展開をお考えですか。

最大のポイントは、高齢化の進展にともなう医療費の抑制政策です。これには、医療システムの効率を図り、コスト軽減への対応が求められます。特にIT(インフォメーションテクノロジー)は今後ますます重要になってくる技術です。例えば、病院と病院、もしくは医師と患者の間を結ぶ情報ネットワークの整備です。先般発売したネットワーク対応型の血

球分析装置 XE-2100 もその一環として、これから大いに期待している製品です。これから高齢化が進むと老人医療ニーズは確実に増加していきます。ホームヘルスケア需要も注目すべき分野です。さらに当社では患者の近くで迅速に検査を行う「POC」(ポイントオブケア)分野にも積極的に取り組んでいます。まさにこれからは、このような医療環境の変化に、高度な技術力による質の高い対応が求められると考えています。

アジア、中南米においては医療環境も大きく異なると思われませんが、いかがでしょうか。

アジア、中南米などは、今後最も有望な地域です。まず、人口が多く、マーケットサイズが大きいことが魅力のひとつです。経済成長とともに医療のレベルが向上し、21世紀には大きな柱となる市場に成長すると期待しています。

これらの諸国への具体的な対応策をお聞かせください。

一番大切に考えているのは現地での供給体制の整備です。医療機器は、導入後のメンテナンスや試薬の安定した供給が重要です。当期もシンガポールに東南アジア・南アジアの統括会社を設立し、インドに生産工場を建設するなど、積極的に体制を強化してきました。これからも拠点の整備を図り、現地のニーズに応じた供給体制を確立していきます。

世界のビッグ企業と対等なアライアンス。  
独自の強みを活かし、さらにグローバルに展開。

世界トップ企業との積極的な業務提携を行われていますが、ロシュ社との提携についてお伺いします。

'98年5月、ヘルスケア業界のトップ企業であるロシュ社とグローバルな契約を結びました。すでにフランス、スペインでロシュ社による当社製品の販売をスタートしており、'99年2月からは北米エリアでの販売強化に着手しました。今後はさらに地域の拡大を図るとともに、お互いの強みを活かし共同開発に取り組んでいきます。

一方、社長がおっしゃる独自の“強み”を活かした展開とは、どのようなことですか。

世界が当社に注目してくれる独自の“強み”、すなわち血球計数分野での優れた技術を武器に、グローバルな事業展開を図るということです。いわば、オリンピックのひとつの種目でこれだけはメダルを取れるというぐらい強力な“強み”です。このテクノロジーがあれば、世界のトップ企業と対等のアライアンスも優位に入れます。医療業界にもおしよせているメガコンペティションの時代において、グローバルなフィールドで勝ち組に入る策はここにあると考えています。

専門性の高い高度な技術力を、新たな分野で活かす新規事業戦略。

21世紀に向けての新規事業分野への取り組み姿勢についてお聞かせください。



これはあくまでも当社が30年の足跡の中で積み重ねてきた技術力を、新しい分野へ積極的に活かそうということです。私たちしかできない独自性の高い技術をさらに発展させ、現在そして将来求められる社会ニーズにお応えしていきたい、というのが基本的なスタンスです。

例えば、具体的にどのような新規事業をお考えですか。

まずひとつは、当社のコアテクノロジーである粒子計測技術を応用したもので、微細な粒子の形状を画像を通じて確認できるというものです。医療分野以外でも、コピーのトナーやファインセラミックスの研究開発や品質管理に活かされています。

その他、高齢化などを背景として、今後病気の予防対策への関心がさらに高まると考えられます。すでに、いくつかの新製品を導入していますが、日常の健康管理に関わる分野へも積極的に取り組んでいきます。

21世紀に向けた新たなコアテクノロジーの創造を目指す。

テクノセンター内に新しい中央研究所を開設されると伺っていますが...

今年6月に着工し、来年4月完成の予定です。私たちはテクノロジーをベースとした企業で、つねに新しい研究開発への取り組みが大切です。独創的な

技術やそれに関わる人材の育成などを創出する場として、外部の研究者も招きオープンなスタイルの



研究所にしたいと思っています。21世紀の事業を担う、新たなコアテクノロジーの創造に挑戦します。

最後に株主の皆さまや投資家の方々に一言お願いします。

経営者としては当然のことですが、最大限業績をあげるにより、継続的に安定した配当を行うことを基本方針としております。また、今までより一層IRに力を入れ、皆さまのご意見やご指示を充分把握し、ご要望にお応えしていきたいと考えています。今後とも、ご理解とご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

取締役社長 家次 恒



む しんしゅう  
「無侵襲技術を初めて製品化!!」

健康管理・スポーツ分野に向けて、期待の新製品ASTRIM(アストリム)登場!!

21世紀に向けたシスメックスの新規事業展開の先駆けとなる商品が、いよいよリリースされました。

体に針を刺さない「無侵襲計測技術」を採用した世界で初めてのヘモグロビン計測装置、“末梢血管モニタリング装置ASTRIM(アストリム)”。ASTRIMは当社が開発した「近赤外分光画像計測法」により、測定部に指先をセットするだけで、簡単に血液中のヘモグロビン濃度が計測できます。本装置は看護婦さん等の有資格者による採血の必要がないため、誰でも苦痛なく簡単に計測できます。しかも約40秒のスピード計測。

去る、3月24～26日に開催された'99年健康博覧会に出展し、多数のご来場者に試していただき評判も上々。健康チェックへの関心の高さに、確かな手応えが感じられました。

ヘモグロビンとは...

赤血球に含まれている色素のことで、身体全体に酸素を運ぶ重要な役目を果たしています。ヘモグロビンの量を調べることで、貧血や持久力のチェックができます。

# 採血せずに血中ヘモグロビン濃度が計測できるって、ホント!?

末梢血管モニタリング装置

## ASTRIM

アストリム



まずはスポーツ分野に参入。  
選手のコンディション調整にGood!!

血中のヘモグロビン濃度の変化データは、スポーツ選手のコンディションを知る大切なバロメーターのひとつです。無侵襲で測定するASTRIM(アストリム)は、繰り返し使用しても肉体に負担をかけず、安全でしかも簡単。選手の体の状態をリアルタイムでモニタリングすることができ、毎日のトレーニング計画、試合や大会前のコンディション調整の助っ人として期待されています。スポーツ団体とのタイアップを行い、入念なテストマーケティングを実施。マラソン選手の持久力を高める高地トレーニングなどへの活用も検討中です。さらに将来的には医療機関はもちろん、企業・学校における検診への展開も期待されています。

幅広い健康社会づくりに貢献できる企業を目指すシスメックスが創立30周年に開発した、新製品ASTRIM(アストリム)。無侵襲計測技術の先陣メーカーとして、新しいフィールドでの挑戦が始まりました。



ASTRIM(アストリム)とは、「Assist + TRIM」(健康増進)からなる造語です。

### 仕様

測定原理：近赤外分光画像計測法  
測定項目：ヘモグロビン値  
表示項目：血管幅、血管画像、静脈酸素化指標  
測定時間：約40秒  
サイズ：350(W)×235(D)×137(H)mm  
重量：約4.5Kg



創立30周年を機として、社名を変更するとともに本社を移転

'98年10月1日、社名を「シスメックス株式会社」に改称。同時に、本社を神戸東部新都心の「国際健康開発センター」ビルに移転しました。新しい本社は阪神淡路大震災の復興計画シンボルプロジェクトとして「いのち」をテーマにまちづくりを推進している地域に位置しています。間近に迫った21世紀に向かいさらなる飛躍



を期し、世界中の人々から信頼され期待される企業を目指す、新生シスメックスにふさわしい拠点といえます。

世界的なヘルスケアメーカー「ロシュ社」とのグローバルアライアンスを締結

'98年5月14日、ロシュ社(スイス)との間で、グローバルな提携を締結しました。

すでに、フランス、スペインでロシュ社による当社製品の販売をスタートしており、'99年2月からは北米エリアの販売強化に着手。ロシュ社の強力な販売・サービスネットワークを活用し、広大な北米地域で市場拡大をさらに強化します。これにより世界マーケットでの血球計数装置のさらなるシェアアップを目指します。

血液ガス分析装置のリーディングカンパニーAVL社とアライアンスを締結

'99年2月23日、AVL社(スイス)と血液ガス分析装置と電解質分析装置の日本における独占販売、サービス契約についての業務提携を締結。4月1日より本格的に販売を開始しました。POC関連で定評のあるAVL社製品を取り扱うことで、この分野を戦略的に開拓。当社製品とのセット販売を行うなどのシナジー効果を期待しています。

POC = 検査室以外のICU(集中治療室)や手術室、ベッドサイドなど患者の近くで実施される緊急性を要する検査

マルバーン社とのアライアンスにより、科学計測分野でのグローバルな展開へ

科学計測分野の核となる粒子計測装置の販売強化を目的として、'98年6月11日、マルバーン社(イギリス)と代理店契約を締結。7月より欧州での当社製品の販売が開始されました。また10月1日よりマルバーン社製品の日本国内販売をスタートすることにより、日本における粒子計測装置のNo.1の品揃えを確立することができました。



マルバーン社製 製品

21世紀の重点市場、アジア諸国に拠点を整備

医療環境の整備が進むアジア諸国を今後の重要なマーケットに据えている当社は、積極的な拠点整備を展開しました。'98年4月1日にはシスメックスシンガポールが業務を開始。7月にはインドに機器・試薬生産合弁会

社を設立。同月、中国での販売・サービス体制の強化を図るため北京分公司を設立。中国語に対応した機器(KX-21)の発売や現地の学術サポートを目的とした「血液学セミナー」を中国で初めて開催するなど、地域医療の発展にも尽力しています。

## 新製品情報

21世紀の医療を見据えた、マルチメディア対応型血液分析装置 XE-2100

数値情報による検査データだけでなく、画像情報も簡単に電話回線を通じて送信でき、世界最速処理能力を持つ多項目自動血球分析装置。院内や病院間でのデータの共有が図れるとともに、ネットワーク機能の活用で遠隔地からのリモートサポートもタイムリーに行えます。発売以来好調で、21世紀に向けた戦略的新製品です。

( '99年1月23日発売 )



企業や学校、スポーツクラブなどを対象とした健康管理ソフトウェア ケア丸



血圧計や体脂肪計などの健康管理機器からデータを自動的に取り込み、個人情報としてデータベース化するWindowsパソコン用ソフト。生活習慣病予防などに大切な継続的なデータ管理ができ、最大

3,000人の登録が可能です。( '99年2月26日発売 )

簡単に、スピーディに尿沈渣結果が得られる全自動尿中有形成分分析装置 UF-50

採取した尿カップから直接吸引させるだけの簡単操作。わずか72秒で正確な検査結果が得られます。コンパクトで低価格化を実現し、中規模病院や小児科、泌尿器科が主な対象。本格的な海外市場導入も予定しています。

( '99年1月1日発売 )



# 財務諸表の概要(単独)

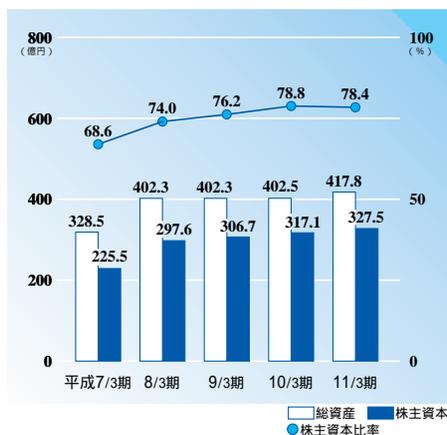
## 貸借対照表

科目	(単位:百万円)	
	当期 平成11年3月31日現在	前期 平成10年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	23,571	22,525
固定資産	18,213	17,725
<b>資産合計</b>	<b>41,785</b>	<b>40,250</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	8,253	7,827
固定負債	779	710
<b>負債合計</b>	<b>9,033</b>	<b>8,537</b>
<b>資本の部</b>		
資本金	3,384	3,384
法定準備金	5,811	5,760
その他の剰余金	23,555	22,568
<b>資本合計</b>	<b>32,752</b>	<b>31,713</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>41,785</b>	<b>40,250</b>

## 損益計算書

科目	(単位:百万円)	
	当期 平成10年4月1日から 平成11年3月31日まで	前期 平成9年4月1日から 平成10年3月31日まで
売上高	30,194	28,604
売上原価	13,075	12,265
売上総利益	17,119	16,339
販売費及び一般管理費	13,799	13,757
営業利益	3,320	2,581
営業外収益	659	561
営業外費用	470	178
経常利益	3,508	2,964
特別利益		19
特別損失	71	29
税引前当期利益	3,437	2,954
法人税・住民税及び事業税	1,882	1,417
当期利益	1,555	1,537
前期繰越利益	599	560
中間配当額	209	167
利益準備金積立額	20	16
<b>当期末処分利益</b>	<b>1,925</b>	<b>1,914</b>

総資産/株主資本/株主資本比率



## 利益処分

科目	(単位:百万円)	
	当期 平成10年4月1日から 平成11年3月31日まで	前期 平成9年4月1日から 平成10年3月31日まで
<b>当期末処分利益</b>	<b>1,925</b>	<b>1,914</b>
特別償却準備金取崩額	12	24
計	1,937	1,938
<b>利益処分額</b>	<b>1,351</b>	<b>1,338</b>
利益準備金	31	30
配当金	250	250
1株につき普通配当10円 記念配当2円		1株につき普通配当12円
役員賞与	68	56
(うち監査役賞与)	( 8 )	( 9 )
別途積立金	1,000	1,000
<b>次期繰越利益</b>	<b>586</b>	<b>599</b>

(注)1. 当期は1株につき10円の中間配当を実施いたしました。

2. 特別償却準備金取崩額は、租税特別措置法に基づくものであります。

### 増収増益

社名変更・本社移転等の費用の増加、有価証券評価損の発生等もありましたが、国内販売・サービス体制の効率化、グローバルな販売活動、販売費及び一般管理費の抑制等により増収増益となりました。売上高に関しては国内16,707(前期比+379)、海外13,487(前期比+1,210)となっています。(単位:百万円)

### 営業外費用について

営業外の主なものとして、以下があげられます。

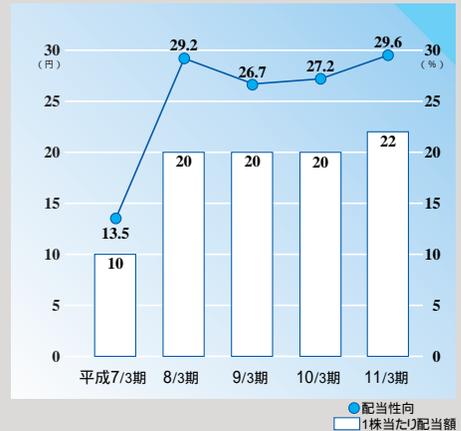
有価証券評価損 234(前期150)  
 為替差損 134(前期為替差益34)  
 前期は差損ではなく、差益がでておりました。  
 (単位:百万円)

### 事業税の取扱い

前期までは事業税が販売費及び一般管理費に含めて表示されておりましたが、当期より法人税・住民税及び事業税に含めて表示しております。前期を当期と同じ表示方法に変更した場合は、以下ようになります。(単位:百万円)

販売費及び一般管理費	13,381
営業利益	2,957
経常利益	3,340

配当性向 / 1株当たり配当額



## 配 当 政 策

### 【利益配分の基本方針】

当社は、株主の皆さまに対する利益還元を経営の最重要政策の一つとして位置づけており、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としております。

### 【当期の配当決定に当たっての考え方】

配当性向と株主の皆さまへの安定的な利益還元を配慮し、1株につき20円の普通配当(内中間配当10円)と30周年記念配当2円を加え合わせて1株につき22円の配当とさせていただきます。

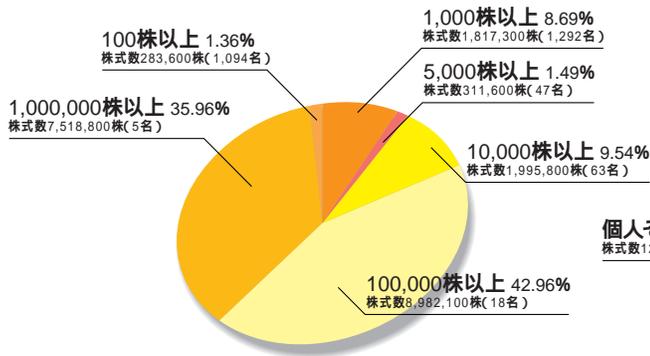
## 株式の状況

会社が発行する株式の総数 74,836,000株

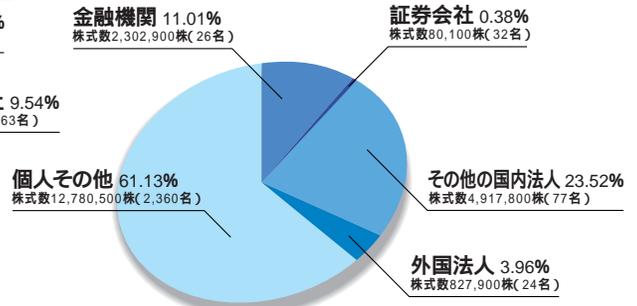
発行済株式総数 20,909,200株

株主数 2,519名

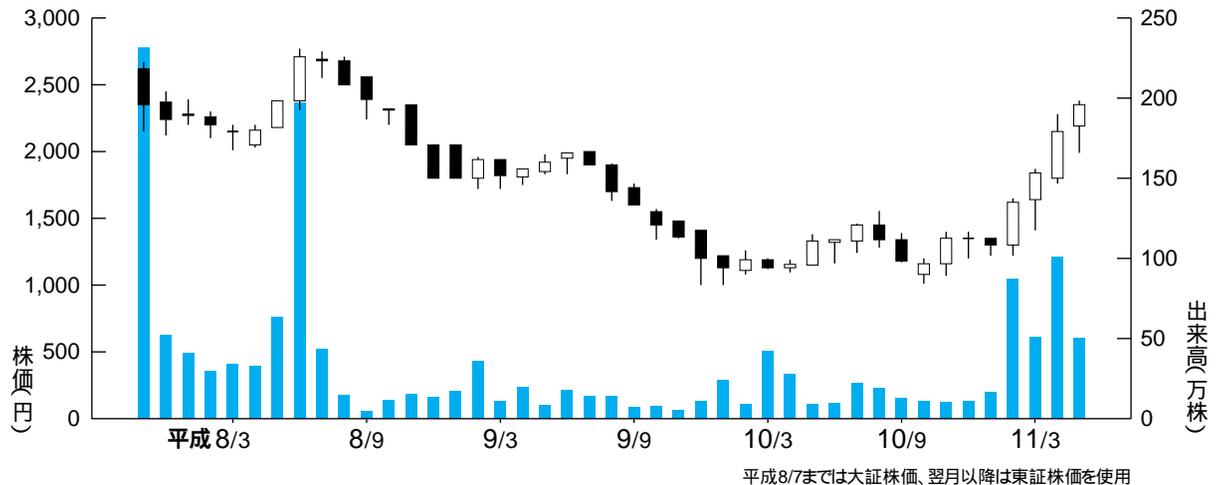
所有数別分布状況



所有者別分布状況



株価・売買高の推移



## 株主メモ

決算期日	3月31日	株式事務	
定時株主総会	6月	名義書換代理人	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社
基準日		同事務取扱場所	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
定時株主総会	3月31日		(郵便物送付先、電話照会先) 〒171-8508 東京都豊島区西池袋1丁目7番7号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話(03)5391-1900(代表)
利益配当金	3月31日	同取次所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
中間配当金	9月30日		
その他必要がある場合は、あらかじめ公告して設定します。			
公告掲載新聞	日本経済新聞		
上場証券取引所	東京証券取引所市場第2部 大阪証券取引所市場第2部		
証券コード	6869		
1単位の株式の数	100株		

## 会社概要

商号	シスメックス株式会社 SYSMEX CORPORATION ( '98年10月1日東亜医用電子株式会社から商号変更 )	主な関係会社	メディカ株式会社 トーアメディカル株式会社 シスメックス物流株式会社 SYSMEX CORPORATION OF AMERICA( アメリカ ) SYSMEX INFOSYSTEMS AMERICA, INC( アメリカ ) SYSMEX REAGENTS AMERICA, INC.( アメリカ ) SYSMEX EUROPE GMBH( ドイツ ) SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH( ドイツ ) SYSMEX UK LIMITED( イギリス ) SYSMEX MOLIS S.A.( ベルギー ) SYSMEX BELGIUM S.A.( ベルギー ) 済南希森美康医用電子有限公司( 中国 ) SYSMEX SINGAPORE PTE LTD( シンガポール ) SYSMEX TRANSASIA BIO-MEDICALS PVT.LTD.( インド )
設立年月日	昭和43年2月20日		
資本金	33億8490万円		
従業員数	973名 嘱託およびパートタイマー184名は含んでおりません。		
主な事業の内容	臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならび に関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入		
主な事業所			
本社	神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 TEL.078-265-0500(代) FAX.078-265-0524	営業所	札幌、盛岡、大宮、千葉、 横浜、新潟、金沢、静岡、 京都、神戸、広島、高松、 福岡支店 鹿児島
テクノセンター	仙台支店		
加古川工場	東京支店		
小野工場	名古屋支店 大阪支店 福岡支店		

## 役員のご紹介

取締役社長 ...家次 恒 (代表取締役)	常務取締役 ...岡田 徳弘	取締役 ...日置 栄一	取締役 ...山本 博
	常務取締役 ...和歌 光雄	取締役 ...中谷 正	常勤監査役 ...天野 好勝
専務取締役 ...雪本 賢一	取締役 ...三好 紀夫	取締役 ...林 正好	常勤監査役 ...植益 純隆
	取締役 ...中嶋 国雄	取締役 ...大東 重則	監査役 ...石田 義暁

データは全て'99年3月31日現在のものです。ただし株価・売買高の推移は'99年5月31日現在のデータです。

# 株主様からの質問箱

**Q** 2000年問題には、どのように対応されていますか？

**A** 医療機器の製造・販売に携わる企業として、非常に重要な問題としてとらえています。また、海外に導入されている製品も数多くあり、現地の事情を把握し徹底した対応を行っています。具体的には、'98年4月から本格的なプロジェクトチームを発足し、9月には対応を完了する予定で進行しています。また、ホームページでお客さまからの個別のご質問にも対応しています。

**Q** 企業の社会貢献が話題になっていますが、シスメックスではどのような活動を具体的に展開されていますか？

**A** まず国内では、'78年から国内外の医学の最先端で研究に携わる先生方をお招きし「シスメックス血液学セミナー」を開催。また、さまざまな臨床データや研究資料をまとめた「シスメックスジャーナル」を定期的に発行しています。国際版として海外にも配布され臨床検査の学術情報誌として高い評価を受けています。また、アジアなど医療環境が不十分な地域で、風土病に関する研究を現地の大学との共同で行っています。豊かな健康社会づくりをテーマとする私たちは、医療に携わる企業として、今後もさらに幅広い社会貢献活動を展開します。

**Q** 新しい社名のシスメックスってどういう意味ですか？

**A** 「Systemex」とは、システム化された医療を意味する「SYSTEMATIC MEDICINE」と無限の成長を象徴する「X」を組み合わせた造語です。Systemexは以前より、信頼のブランドとして世界各国の医療業界で親しまれてきました。そして、創立30周年を機として、このブランド名を社名にいたしました。また、同時に発表された「FUTURISTIC PULSE」の言葉とマークには、“つねに先進のテクノロジーを追求し、お客さまや社会のお役に立つ新たな価値を創造する。そして、グローバルな視点で、豊かな健康社会づくりを担っていく企業でありたい”という、21世紀に向けたシスメックスの決意が込められています。



**Q** シスメックスの製品は、世界何ヶ国で使われているのですか？

**A** 当社の製品は現在、世界の110を超える国々や地域で使用されています。アメリカ、ドイツ、イギリス、ベルギー、中国、シンガポール、そしてインドに現地法人を設け、グローバルな展開を行っています。機器のメンテナンスやサービスを含め、よりよい医療環境の整備に努めています。



しころで

# シスメックスって、何をしている会社？

一般の投資家の方々からこのようなご質問をよくいただきます。確かに日常生活の中で、私たちの製品を目にされることもほとんどないはずですが、ご説明するにしても、臨床検査や検体検査、血球計数、血液凝固など、日頃耳にしない言葉が多く、理解していただきにくいのは当然です。そこで、この誌面を通じてできるだけ分かりやすく私たちの事業内容をご紹介します。

## 2. その分野で何をしているの？

臨床検査は大きく、検体検査と生体検査の二つに分けられます。検体検査とは体内から血液や尿を採取してその状態を調べる検査、生体検査とはレントゲンや脳波測定など身体を直接調べる検査のことです。シスメックスは検体検査の分野で事業展開しており、中でも、血球計数、血液凝固、免疫、尿検査に必要な機器やシステム、その検査に必要な試薬を開発し、製造販売するわが国のトップメーカーです。



## 1 臨床検査って何？

病院や診療所の窓口で看護婦さんから

「まず、紙コップに尿を取ってきてください」といわれた経験は一度はあるはずですが、定期検診や身体に異常を感じたとき行う血液や尿などの検査、心電図や脳波の測定などを一般的に臨床検査と呼んでいます。

健康状態のチェックや病気の治療方法の決定など、大切な役割を果たしています。



## 3. 血液や尿から何がわかるの？

血球計数の検査では、赤血球や白血球、血小板などの数を計測し、病気の疑いがあるかどうかを調べます。また、血液凝固検査は止血の働きをチェック。免疫検査は肝炎など、病気の感染の有無を判断します。尿検査では尿成分の性質や量から、体内の異常を発見することができます。血液や尿はいずれも、身体の健康状態を知る上での重要なバロメーターとなっています。



# W

# orldwide report

●Hamburg  
GERMANY

シスメックス

## 海外事業所通信—①

ドイツ ハンブルグ



ヨーロッパ、中近東、アフリカ  
全域を統括し、試薬の生産と  
安定した供給を展開

SYSMEX EUROPE  
GMBH



Ms. Dagmar Jönsson  
General Administration Manager

ハンブルグは伝統のあるヨーロッパ有数の港町。ベニスやアムステルダムを上回る7,000以上もの橋がある水の都です。水辺ではセーリングや水泳、ダイビングなど、市街地近郊では乗馬やサイクリングなどを楽しむ人々の姿がよく見られます。古くから東洋貿易の窓口であり豊かな国際色と、アットホームな雰囲気を持ち合わせた魅力的な都市です。

このドイツ・ハンブルグに'72年駐在事務所がオープンし、つづいて'80年にシスメックスヨーロッパが設立されました。現在は、北はノルウェーのノールカップ岬から、南はアフリカ最南端の喜望峰。西はポルトガル西方の

アソレス諸島から、東はロシアまでの46代理店を統括しています。

シスメックスヨーロッパの主な役割は大きく3つに分けられます。まず、マーケティング活動。それぞれの地域にあわせたマーケティング活動をきめ細かく行います。

次に代理店への販売、サービスサポートがあげられます。機器のメンテナンスやサービスを行う各代理店の人材育成を担当する専門スタッフも常駐し、お客さまのニーズに的確に対応できる体制を整えています。ヨーロッパで開催される大規模な医療機器の展示会にも積極的に参加。その他、医療技術や知識の向上に貢献するシンポジウム、ユーザーミーティング、代理店会議も開催します。

さらに試薬の生産も重要な業務です。高品質な試薬を安定してお届けするため、ハンブルグ近郊に試薬工場を設立。ヨーロッパ全域に供給する試薬の大半がこの工場で製造されています。

これからもお客様のご要望に的確に対応し、ご満足いただけるよう努力してまいります。

